

群 教 七	G11 - 03
	平26.254集
	特活 - 小

# 学級活動において折り合いを付けた 話し合いができる児童の育成

— 集団決定場面での意見集約表の工夫を通して —

特別研修員 田中 尚子

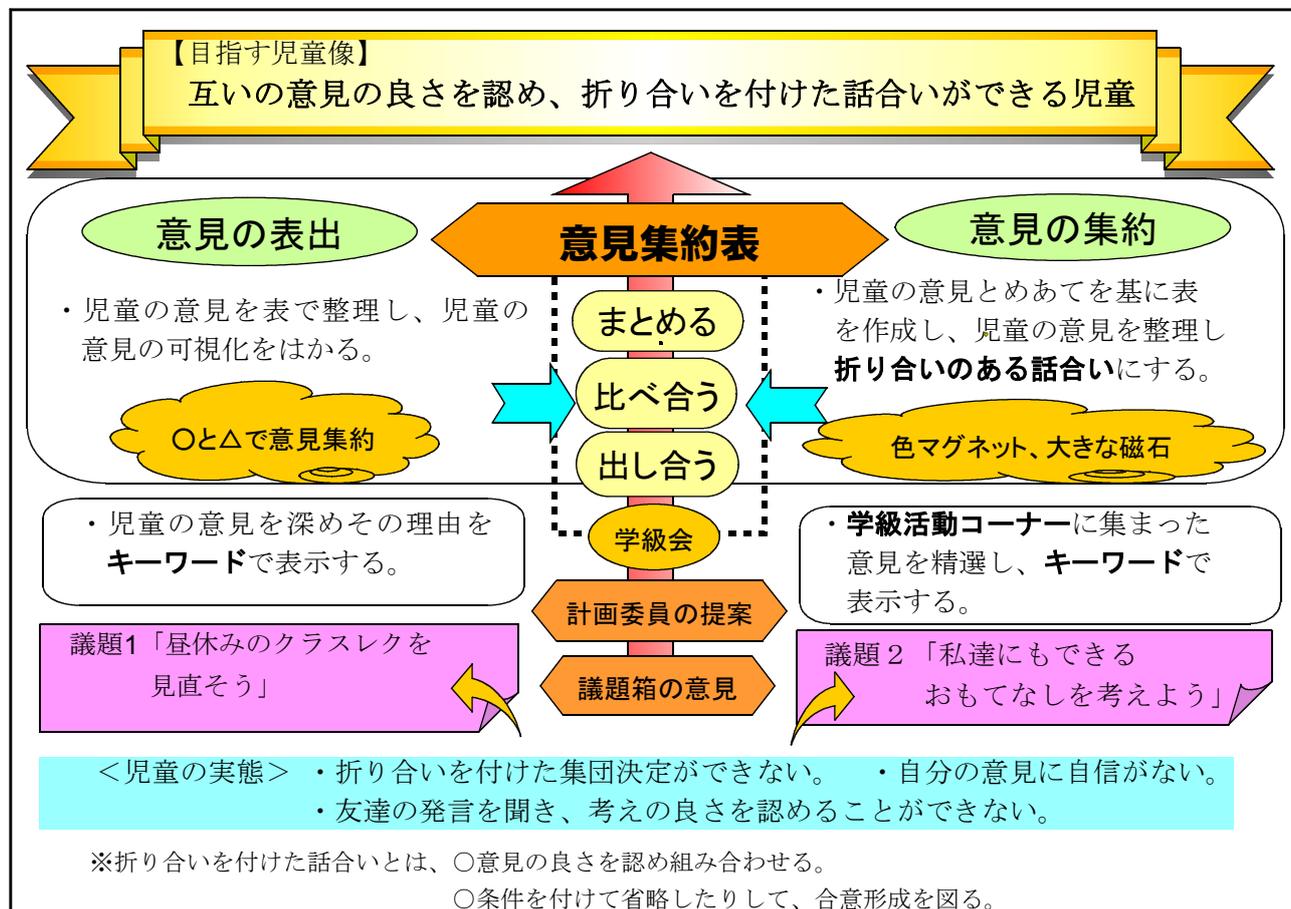
## I 研究テーマ設定の理由

平成26年度「学校教育の指針」には、学級活動の指導の重点として、輪番制による計画委員会を組織し、学級で話し合うべき必要感のある議題の設定や、児童が充実感や存在感を味わえるような自発的・自治的な活動の充実が求められている。

中学年の児童は、話し合いの中で自分の意見に自信をもって主張ができず、集団決定の場面で自分の考えに固執してしまう傾向がある。そのため、友達の意見の良さを認めて考えを改めたり、友達の意見と自分の考えとの妥協点を探したりするなど、折り合いを付けた話し合いをするのが難しい。そこで、集団決定場面で、発言の中からキーワードを抜き出し、それぞれの意見の要点を捉えて整理するようにすれば友達の意見やその理由が明確になり、意見の比較がしやすくなると思った。また、話し合いのめあてを縦軸に、児童の意見を横軸に取り意見集約表を作成して比較検討していけば、めあてに則して折り合いを付けた話し合いが行えると考えた。そして、話し合いで決まった活動に、それぞれが自分の役割を担うことで自発的・自治的な活動に主体的に取り組むことができると考え、上記の通り主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

学級会の内容（1）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決において、児童主体の活発な話し合いが行えるよう、以下の手立てを用いて実践した。

### 実践1における研究上の手立て

- ・意見とその理由をキーワード化して短冊に記述し、黒板に掲示し意見を比較しやすくする。
- ・児童から出された意見を意見集約表で整理し、児童の意見の可視化を図る。

児童は学級活動ノートにあらかじめ議題に対する意見を記入し、自分の意見に明確な理由を付けて発表できるようにする。また、児童の記入した学級活動ノートを事前に集約して意見の把握を行い、意見の要点となるキーワードを拾い出して記入した短冊を用意した。意見集約表の横軸は「比較のためのめあて」、縦軸は「児童から出された意見」とした。横軸のめあては計画委員と担任で事前に相談して提示した。また、意見は○や△の記号を使って整理し、可視化を図った。

### 実践2における研究上の手立て

- ・学級活動コーナーに意見を募り、それを基に、児童が自分の考えを深めて話し合いに参加できるようにする。
- ・児童の意見を縦軸に、話し合いのための視点を横軸にとり意見集約表を作成し、児童の意見を分かりやすく整理することで、集団決定に向けて比較しやすくする。

実践2では、議題についての意見を1週間前に募り、計画委員と担任で議題ポストに集まった意見をまとめて提示し、話し合いの焦点化を図れるようにした。また、事前に児童の意見を出し合うことで、「比べ合う」「まとめる」過程に十分時間を取れるようにした。また、出された意見を意見集約表で整理し、カラーマグネットを使って意向を可視化したことで、話し合いの状況や児童の意見の動向を分かりやすくし、参加児童それぞれの思いを生かした集団決定ができるようにした。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 学級活動コーナーに掲示したみんなからの意見に対して、児童が学級活動ノートに自分の考えを記述し、それを基に話し合いに参加することで、意見を深める発言を促すことができた。
- 学級活動コーナーに集まった意見を比べ合う際に、キーワードで整理した比べ合いの視点を板書することにより意見が比べやすくなり、焦点化した話し合いが行われた。
- 話し合いで出された児童の意見と比べ合いの視点という二つの軸で意見集約表を作成し、意見の賛否を可視化することで児童相互の考えが分かりやすくなり、折り合いを付けた話し合いができた。

### 2 課題

- 意見集約表の横軸となる比べ合いの視点については、計画委員だけで項目を作ることは難しいので、めあてを明確にし、必要な視点について計画委員と話し合うなど、教師が支援をする必要があった。

### 3 提言

- 視点を絞った話し合いにするため、児童の意見をキーワード化することを取り入れてみましょう。
- みんなが納得できる折り合いを付けた話し合いに向けて、意見集約表を活用し継続的に指導していきましょう。

<授業実践>

実践 1

1 議題名 「昼休みのクラスレク（集団遊び）を見直そう」（第4学年・1学期）

2 本議題及び本時について

クラスレクとは、本学級で体育の授業のない日の昼休みに、週2日クラス全員参加で実施している遊びである。何をするかは、体育係が児童の希望を聞き、決めている。6月に入り、児童の中から遊びや実施方法を変更した方が良いという意見が出てきた。議題箱にも同様の意見が寄せられたため、計画委員で取り上げることにした。クラスレクのもち方について考えることを通して、折り合いを付けて話し合いを行い、参加児童の相互理解を深め、より良い人間関係作りに生かしていきたいと考えた。

3 授業の実際

本学級の計画委員は5名で、学級の児童全員が輪番制で運営を担う。5名の役割は司会、副司会、黒板書記、ノート書記で、こちらも輪番制で行っている。計画委員は、金曜日に議題募集の呼びかけを行う。月曜日に集まった議題の中から学級会で話し合う必要のある議題を選出し、掲示用カードの準備を行う。水曜日に学級活動ノート配布し、自分の意見とその理由を書くよう呼びかけを行い、児童が記述後に学級活動ノートを回収する（図1）。

計画委員は、回収した学級活動ノートを基に児童から出される意見を予想し、短冊の準備や話し合いの進め方や意見のまとめ方についての打ち合わせを行った。また、学級会では「いつレクを決めたらよいか」「いろいろな遊びを取り入れる方法」の二つを話し合うこととし、事前に準備した短冊を活用しながら話し合いを進めていった。

(1) 「いつレクを決めたらよいか」について

意見を出し合う過程では、縦軸に児童から出された意見（話し合いを行う時間）をキーワードでまとめて掲示した。

比べ合う過程では、縦軸に児童の意見、横軸に理由を掲示し表を作成した。児童から出された意見は、賛成を○で反対を△で表示した（図2）。

意見をまとめる過程では、○印のついている項目に対して、次のような意見が出された。

	みんなの活動	計画委員会の活動（休み時間・放課後）
事前		○議題選び（議題ポスト・朝の会や帰りの会の話から） ・今週の議題を決める。 ・議題を用紙を書く。 ・学級活動ノートの準備。 ・提案者への返事を書く。
当日	○議題の発表（朝の会） ・学級活動ノートの記入 ・学級活動ノートの提出	○議題の発表 ・議題をひ出す。 ○話し合いの活動計画を立てる ○学級会の準備 ・必要な時はアンケートを行う。
事後	○決まったことの実行	○話し合いの反省 ○次回の計画委員への引き継ぎ ・次回の計画委員の役割を決める。 ○議題ポストへの提案の呼びかけ（帰りの会）
		○決まったことの実行 ・決まったことを掲示する。 ・必要な係を決める。 ・実施する。

図1 計画委員の活動の流れ

決まったこと	時間	授業	すぐ決まる	全員がいる
前の日の帰りの会か放課後で、時間がとれるとき				
前の日			○	
20分休み	△			
前の日の帰りの会		△		○
前の日の放課後	○			
1日前、1週間前				△
5分休み	△	△	△	
朝				

※賛成は○、反対は△

図2 意見集約表で傾向を知る

いつレクを決めたらよいか「まとめる」段階での児童の発言

- S1：ぼくは、前の日の帰りの会か、放課後がいいと思います。理由は前の日の帰りの会や放課後なら、時間が取れるからです。
- S2：前の日の帰りの会や前の日の放課後がいいです。理由は、前の日だと忘れないからです。
- S3：前の日の帰りの会か、放課後がいいと思います。でも、両方とも時間がない人がいるかもしれないから、両方で時間のある時にやればいいと思います。
- S4：前の日の帰りの会の、「係からの連絡」の時にやればいいと思います。その時に言えば、みんなが次の日に何をやればいいか分かるからです。

児童の発言を見ると、○印のついている項目をまとめた発言や、それに賛成する意見が続いている。これは意見集約表を使ったことにより、それぞれの児童の意見が見やすくなったことが考えられる。また、全体的な傾向も汲み取りやすく、意見集約表を参考に意見をまとめることによって、多くの児童の考えを取り入れた集団決定ができたと考える。こうした児童の意見を取り合わせた結果、今回の話し合いでは「前の日の帰りの会か放課後で、時間がある時」という意見でまとまった。

続いて、いろいろな遊びを取り入れるための方法についての話し合いを行った。

## (2) 「いろいろな遊びを取り入れる方法」について

出し合う過程では、学級活動ノートの記述を基に、自分の意見に理由を付けて発表し合った。

「いろいろな遊びを取り入れる方法」について、「出し合う」段階で出された児童の意見

- |              |              |                |
|--------------|--------------|----------------|
| ・いつもやっていない遊び | ・どんな遊びがあるか聞く | ・レク係から提案する     |
| ・投票箱を作る      | ・前やった遊びはやらない | ・遊びを本で調べる      |
| ・意見を聞く       | ・アンケートを作る    | ・ボール遊びも鬼ごっこもやる |
| ・インタビューする    |              |                |

黒板書記の児童は、意見をキーワードでまとめて短冊に書き、縦軸に遊びを取り入れる方法、横軸にその方法が良い理由を掲示して意見集約表を作成した。児童が意見を出し終わってから、それぞれの意見に対する賛成・反対の意見を出し合い比べ合った。

まとめる段階では、以下のような意見が出された。

「まとめる」段階での児童の発言

- S 1 : 「投票箱を作る」に賛成です。投票箱を作った方が、いろいろな意見が出るからです。  
 S 2 : 「投票箱を作る」に賛成です。理由は、投票箱を作ったら、いっぱい遊びができるからです。  
 S 3 : 「アンケートを作る」に反対です。理由は、アンケートを作っていると時間がかかるからです。  
 S 4 : 「アンケートを作る」に賛成です。理由は、アンケートを作ると、全員の意見が聞けるからです。  
 S 5 : 「みんなに聞く」に反対です。理由は、みんなに聞くと時間が無くなるからです。それに、意見がまとまらなくなるからです。  
 S 7 : 「本で調べる」に賛成です。理由は、本で調べると、早くいろいろな意見がでるからです。  
 S 8 : 「みんなに聞く」に反対です。理由は、みんなに聞いていると、今までと同じでレクの時間が無くなるからです。  
 S 6 : 「投票箱を作る」に賛成です。理由は時間がかからないからです。

いろいろな遊びを取り入れる方法については、「たくさんの種類の遊びが出る」「時間がかからない」「意見が出やすい」の3項目に多くの丸がついた「投票箱を作る」に決まった。

## 4 考察

話し合いの中の「出し合う」段階で出された児童の意見を意見集約表の中で賛成は○、反対は△の記号で表示した。それにより、個々の児童の賛成や反対の意見とその理由が分かりやすくなった(図3)。

意見を「比べ合う」段階では、横軸の項目をよりどころとした意見が多く出された。児童は表を基に友達の意見をふまえて、自分の意見を発言していた。意見を「まとめる」段階でも、表の横軸の項目を根拠として賛成や反対の意見を出す児童が多く見られた。

児童が表に示された友達の意向を取り入れながら、自分の意見としてまとめて発言していることから、意見集約表が折り合いを付けた意見集約に有効であることが分かった。

	たくさんの種類	時間がかからない	意見がでやすい	つまらない	かんたんにできる
みんなに聞く		△			
いつも遊んでいないもの	○			○△	
とつひよう箱を作る	○	◎	○		
前とちがう遊びをする					△
本で調べる	○	○			
アンケートをとる		△	○	△	
好きな遊びを聞く					△

※賛成は○、反対は△、賛成多数は◎

図3 遊びの幅を広げる意見集約表

## 実践2

### 1 議題名 「私たちにもできるおもてなしを考えよう」（4年生・2学期）

### 2 本単元（題材）及び本時について

富岡製糸場が世界遺産に認定されたことに伴い、富岡市にはたくさんの観光客が訪れるようになった。社会科の学習で学んだことや、6年生が子ども解説委員として活躍する姿をテレビで目にしたことで、児童の中にも富岡製糸場についての関心が高まっていた。そうした中で、児童の中から自分たちにできることはないかという声が議題箱に寄せられた。そこで、富岡製糸場や富岡市にみえる方々のために、自分たちにもできることについて話し合い、活動することを通して、より良い人間関係づくりに役立てていきたいと考えた。

### 3 授業の実際

「私たちにもできるおもてなし」で行う活動内容や、その活動を実践するにあたり必要な係を話し合った。それぞれが役割を担い、それを果たしていこうとすることで、自主的・実践的な態度を育てることをねらいとした学級活動を行った。



図4 学級会コーナーに集まった意見

話し合いを活発にするため、議題に対して事前に意見募集を行い、出された意見を学級会コー

ナーに掲示した（図4）。その中から、計画委員と担任で実施が可能かどうか検討して意見を絞り、残った意見に対する児童一人一人の意見とその理由を、個人の学級活動ノートに記入した。

事前の意見募集で議題箱に寄せられた意見		下線は検討を経て残った意見
・道案内	・困っている人がいたら声をかける	・ <u>いいところを教える</u>
・案内をする	・お店をしょうかいする	・おもいやり
・もりあげる	・ <u>元気にあいさつしながらそうじする</u>	・ <u>ポスター配り</u>
・製糸場の説明	・ <u>元気にあいさつしながらポスター配り</u>	・苗植え
・助ける	・ <u>大きな声であいさつ</u>	・ <u>新聞配り</u>
	・ <u>新聞配り</u>	・ <u>ゴミ拾い</u>
		・清掃

また、意見を絞り込んでいく視点として、話し合いのめあてを基に事前に計画委員と相談し、キーワードを以下のようなものにした。

- ・全員が参加できる
- ・来た人とふれあえる
- ・準備が簡単
- ・来た人が気持ちよく過ごせる
- ・時間内にできる
- ・来た人が来て良かったと思う

#### (1) 「どんな活動がふさわしいか」について

計画委員は事前に意見を募集し、絞り込みを通して残った意見を学級会コーナーに掲示した（図4）。その意見を基に、児童は学級活動ノートに自分の意見を記述した。計画委員は学級活動ノートから児童の意見を集約した。

「出し合う」過程では、黒板に掲示されている意見の他に、追加の意見の有無を確認した。

「比べ合う」過程においては、児童からの意見を

整理し、賛成の場合には赤いマグネットを、反対の場合には青いマグネットを表の中に貼り、どの意見に賛成が多いのかが一目で分かるようにした。表に示されている比べ合いの視点を自分の意見の中に取り

決まったこと 十五人はゴミ拾い、十五人はあいさつ をして一時間たったらこうたいする。	大きな声であいさつ	元気にあいさつしながらそうじする	いいところを教える	ごみ拾い	新聞配り	ポスター配り	元気にあいさつしながらポスター配り	道あんない	どんな活動がふさわしいか
	●●	▲▲	▲▲	●▲	▲▲	▲▲	▲	○	
来た人とふれあえる	○○						○○	○	
来た人がきもちよく過ごせる	○○○			○○○			○		
じゅんぴがかんたん	○			○	△				
全員が参加できる	○○○	△△		○				△	
時間内に出来る	○○○			○	△			△△	
来た人が、来て良かったと思う	○○	○		○○○			○		

○は賛成 △は反対  
●はまとめる段階での賛成  
▲はまとめる段階での反対

図5 マグネットで賛否を示した意見集約表

り入れ、発表する児童が見られた。また、反対意見を言う時にも、同様の児童が見られた。

意見を「まとめる」過程では、大きなマグネットを使用し、賛成は赤色、反対を黄色で表示した。どの意見に賛成票が多いかが視覚的に分かるように表示した。児童からは以下のような意見が出された。

「まとめる」段階での児童の発言	
S 1	「大きな声で挨拶」に賛成です。理由は、反対意見がないからです。
S 2	「ゴミ拾い」と「大きな声で挨拶」を一緒にしたらいいと思います。両方とも賛成意見が多く出ているし、バラバラにするよりも一緒にした方が良く思うからです。
S 3	両方をくっ付けるのには、反対です。どっちかに集中した方が良く思うからです。 ————— 挨拶と掃除を一緒に行うことに反対する意見が続く —————
S 4	「ゴミ拾い」と「大きな声で挨拶」は、くっ付けないほうが良いと思います。理由は2時間位あるので、1時間ずつやれば良いからです。
S 5	S 4の意見を受けて、このクラスは30人なので、15人ずつに分けて1時間経ったら交代すればいいと思います。そうすれば、挨拶を1時間やっても、そんなに時間もかからないと思います。
S 6	S 5君の意見に賛成です。みんなが参加できて、時間にも間に合いそうだからです。

「どんな活動がふさわしいか」については、意見集約表に賛成意見が多く、反対意見のない「大きな声で挨拶」と「ゴミ拾い」の二つに絞られたが、両方の活動を一緒に行うかどうかで意見が対立した。

S 5から、「15人がゴミ拾い、15人は挨拶をして、1時間たったら交代する」という折衷案が出されると、みんなが賛成した。これは、「全員が参加」「活動時間が2時間くらい」という条件や話合いのめあてに照らして、折衷案としてみんなが納得する折り合いができると感じたためと考えられる。このことから、児童は意見集約表にある賛成意見を意識し、「めあて」や「決まっていること」を生かしながら意見をまとめようとしていたことが分かる(図5)。

## (2) 「必要な係を決めよう」について

話合いで決定した活動内容を受けて、実施に必要な係について話合いを行った。児童からは以下のような意見が出された。

児童から出された意見			
・お手伝い係	・時計係	・ゴミ分別係	・地図係(ゴミを拾う場所の選定、道順を考える)
・準備係(活動に必要な物を考え、準備を呼びかける)	・計画係(活動当日の時間割を作る)		

児童は、今までの活動経験に照らして必要と思われる係を出していた。その中から、「活動に必要」「みんなで分担してできる」「時間を守って活動できる」といった基準に照らして、お手伝い係、計画係、時計係に決定した。

## 4 考察

計画委員が、事前に意見を学級活動コーナーに掲示した。児童はみんなの意見を読むことで、様々な考えを知ることができた。また、多くの考えに触れる中で、自分の考えをより深めることができた。学級会では、深めた考えの上に立って、自分の意見を発表していた。そのため、どの児童も自分の意見に対して自信をもち、堂々と意見を発表できた。今回の話合いでは、学級会コーナーの活用により意見が周知されていることから、意見を比べ合う過程から話合いを行った。そのため、意見の比較検討に多くの時間を使うことができ、活発な意見交流が行えた。

意見集約表は、カラーマグネットで色分けして表示したことで賛否が分かりやすくなった。集団決定の場面で、児童は賛成の多い意見や話合いのめあて、決まっていることを参考に、みんなが納得できると考えた意見を使い、学級として折り合いを付けた意見にまとめることができた。その時、比べ合いの視点が論拠となるだけでなく、意見集約のための手立てとなった。

意見集約表は、児童一人一人の意見や根拠が明確になる。そのため、焦点化した話合いが行える。児童の総意を取り入れた折り合いを付けた集団決定を行ううえでは、集約表の活用は有効である。さらに、より良い集団決定をしていくためには、比べ合いの視点を議題やめあてにあわせて工夫していくと良い。